鎌倉つれづれ

かまくらの石

⑤⑤

池田正弘

随分と前の事だが隣で宮大工が家を建てていて残った壁土を貰った。良質な壁土を作るには粘土質の土に切り藁を混ぜ、それに古い民家の壁土を加える。古い壁土を加えることにより発酵を促すのか強さが増すのか。ダムの建設等で湖底に沈む集落があると民家の壁土を貰って保存して置くとのことだ。当時流行っていたカスピ海ヨーグルトの作り方と同じだなと思った。

石は火に弱いと聞いていたが疑い深い性質なので石が燃える訳も無いと、この壁土と手近にある鎌倉石を使って庭に竈を作ってみた。竈に大鍋を掛け薪に火をつけた。火勢が強まると竈の中で破裂音を伴って鎌倉石が弾けはじめた。爆発音と共に大きな破片が砕け散り、一度使って竈は取り壊した。建築に使う花崗岩にも表面をバーナーで焼いて表面を仕上げるバーナー仕上げがあるが石は火に弱いと納得した。しかし鎌倉石は火に強く竈等に使用されていたと資料には記されている。未だにあの破裂音は何だったのか不可解なまま疑問が残っている。

今では鎌倉石は切りだされていない。石切り場の跡も木々の緑に覆われよく探さないと見落としてしまう。貴重だが高級品ではない。石質が柔らかで風化しやすい。社寺を始め町のあちこちで使われていて鎌倉の古都の雰囲気は鎌倉石が醸し出している。砂岩で水気を含み角々が風化して丸みを帯びている。

長い歴史を持つ鎌倉であっても古い建造物を残すことはたやすくはない。しかし各時代に鎌倉に持ち込まれた石は残っている。奇岩奇勝は無いが町中の石を見ながら勝手な想像をしながらの散歩は楽しい。

一見して大谷石の石塀が良く見ると土台部分は鎌倉石が残っている。大谷石は大正時代前後に別荘族により持ち込まれたか。社寺の参道は鎌倉石で真ん中がすっかりすり減っている。補修された参道は両脇の縁石は鎌倉石のままで摩耗が激しい敷石は固い根府川石に替えられたようだと推測しながら散策する。

永福寺跡の発掘調査によれば庭園に使用された石は初期の頃は鎌倉近郊で採取される軟質の砂岩・凝灰岩系のもの、いわゆる鎌倉石である。後になって箱根の安山岩系が用いられたとある。現在の根府川石・もしくは真鶴の小松石である。源頼朝が自ら差配したと伝わる永福寺の建立で初期の庭石が鎌倉石で後安山岩が使われたということは、それ以前は鎌倉での築造は殆んど鎌倉石だけで行われていたと見て良いのではないか。手軽に切りだせる鎌倉石と違って真鶴半島の石は貴重であったのであろう。

石肌の美しさでは徳川四代将軍家綱が奉納した鶴岡八幡宮の一ノ鳥居であろう。瀬戸内海の犬島産の御影石は薄くピンクを佩き石英質が多く含まれているのか透明感があり最高の御影石だと頷ける。

段葛の修復も完成した。以前と同じに葛石を積み上げて一段高く作られたが、現在の土木工事の安全基準では葛石を積み上げて擁壁を作ることは非常に困難になった。安全をとるか景観に配慮するか答えは難しいが町中が間知積みと花崗岩の貼りつけ壁となるのは淋しい。

風化の激しい五輪塔

鎌倉石に古刹を見る

地引網漁体験に歓声

鎌倉の浜辺で世代間交流

「地域の元気づくり」を合言葉に若い親子と高齢者の世代間交流を深める「第5回三世代交流事業in坂ノ下」が、みらいふる鎌倉（鎌倉市老人クラブ連合会）や鎌倉漁業協同組合などの主催で、11月5日坂ノ下海岸で開催され、約350人が参加した＝写真。

「魚の勉強会」では、水槽を取り囲んだ子どもたちが魚の名前を答えたり、若手漁師から鎌倉で獲れる魚や触ってはいけない部位などを学んだりしながら魚とのふれあいに目を輝かせた。

今回は地元で復活した地引網の体験が初めて行われ、子どもたちは率先して網の両端を網引きの要領でゆっくりと引き上げた。網が浜に姿を見せると歓声があがり、網の中で跳ねるイワシ、シマアジ、クロダイ、カマスなどが選別され、魚のみそ汁や焼き手とともに振る舞われた。

漁協の原実組合長(68)は「今回やっと地引網の体験を盛り込めた。多くの参加があり目的が果たせた」と目を細めた。奴田不二夫実行委員長(76)は「今後も継続したい」と交流の場づくりへの意欲を見せた。参加者は海岸清掃を行い、海での一日を締めくくった。（K）

思い出の写真にお別れ

浄智寺で写真供養感謝祭

鐘楼門へと続くゆるやかな石段が美しい鎌倉五山第四位の浄智寺で11月12日「第20回写真供養感謝祭」が行われ、約150人が訪れた＝写真。本尊が安置される曇華殿（どんけでん）から朝比奈惠温住職らの読経が響く中、境内に設置された御焚き上げの炉の前に思い出の写真を手に並ぶ人々が続いた。

瑞泉寺で17年間続いた写真供養は、同寺に移り3回目。杏林大学外国語学部観光交流文化学科、宇佐美ゼミの学生15人らの実行委員会が同寺の協力を得て企画し、毎年11月の第2土曜日に開催。地域・人・心のつながりを伝えることを目的に、学生らが社会貢献を学ぶ場にもなっている。

広報担当の鈴木沙弥さん（21）は「写真をお持ちになる方々にどれだけ寄り添ってお手伝いができるかに心を配った」と話す。

多く持ち込まれたものについては別途供養され、セピア色の写真を名残惜しげに炎に入れる人、幼児連れで手を合わせる家族、子どもに整理の負担をかけたくないと自分の写真をまとめて持参したという人もいた。

横浜在住の60代の女性3人は「写真供養をしてもらえるところは少ないのでこのような機会は貴重」と来年も訪れたいと話していた。（K）

近現代史資料の役割

市民55人が意見交換

秋の読書週間に合わせ、今年9回目を迎える鎌倉市中央図書館の「ファンタスティック☆ライブラリー105」で11月5日、鎌倉の近現代史資料について考える講演とワークショップが開催され、市民ら55人が参加した＝写真。講演では、「鎌倉学」研究の第一人者、永野征男日本大学名誉教授が、大船の資生堂鎌倉工場跡地の開発で土地の一部が市に寄付されるという最近の報道記事を取り上げ、「この土地の歴史には、9万坪のうち2万坪が旧鎌倉町から企業側に寄付されているという史実が残る。このような報道で、わずかな寄付によって開発が優遇されてはならない」と危惧を示した。大正時代の「田園都市計画」の頓挫、松竹の住宅開発失敗が工場誘致へとつながる過程で鎌倉町から企業への寄付があったことを解説、近現代史を見ることの重要性を説いた。「地域学」についても取り上げ、東北や多摩での先進例を挙げながら、市民が歴史を学び、行政との協働で「鎌倉学」を作り上げれば全国に影響を与えるだろうと述べた。

そのあと、4班に分かれて意見交換が行われ、市民の近現代史への関心の高さが伺えた。（K）

日本リトアニア友好交流美術展に出展

村田佳代子さん

鎌倉市大町在住の画家で、鎌倉文化協会会長の村田佳代子さんが、12月9日から2017年1月22日までリトアニアの国立チュルリョーニス美術館で開催される独立回復25年を祝う美術展に出品する＝写真。

日本リトアニア友好交流美術展で、出品依頼を受けた村田さんは、8年前に制作し、国際平和美術展で展示された作品を杉原千畝にちなんで改作加筆し、「侍魂」（弱きを助け、強きを挫く）とタイトルを付け、杉原千畝オマージュ作品として寄贈することにしたという。作品は、20号サイズの油彩画で、伊達政宗の陣羽織などが描かれている。

黒田康子さんを偲び

朗読劇「最後の葉書」

昨年10月に百歳で亡くなった逗子葉山の郷土史研究の第一人者、故・黒田康子（しずこ）さんの一周忌に合わせた朗読劇「最後の葉書」が東逗子で11月12、13日行われ、約150人が来場した＝写真。

同劇は戦争へと向かう1941年に康子さんが結婚した夫、黒田昇義（のぶよし）さんとの書簡をまとめた冊子『最後の葉書』を元に構成されたもの。結婚までの半年と戦地に赴いた後に交わされた手紙の中には、暗い時代背景の中、短くも幸せだった二人の強い絆と愛が凝縮されている。異例の早さで国宝となる興福寺の仏頭を再発見した建築史家の昇義さんは、研究を断念し戦地へ。帰ってきたのは空の遺骨箱だった。康子さんは、夫の遺志を受け継ぐように教壇に立ちながら郷土史研究への道を歩みはじめ、死の直前まで反戦と平和への願いをこめ、庶民の歴史を地道に拾い上げる郷土史の探求に情熱を傾けた。

今回の公演は、女優の九里（くのり）みほさん(48)が梶原茉莉さんと組む演劇ユニット「おとのえ」が企画。九里さんは康子さんの最後の教え子で、黒田家の協力を得て手紙の日付のつき合わせから苦心を重ねた。会場では故人を偲ぶ声が寄せられた。（K）

鎌倉といえば・・・
鳩サブレー
豊島屋
http://www.hato.co.jp

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10 TEL.0467(47)3311
営業時間：午前10時～午後7時 木・日・祝日休業
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。

古書 藝林荘（げいりんそう）
古い本、お譲りください
芸能・美術・文学・宗教・和本・摺りもの等
10：30－18：00 月曜定休
鎌倉市雪ノ下1-5-38（小町通り）
☎0467・22・6533
出張買取無料